

試験溶融の結果は？



どんな検査をしたの？

2月16日から17日にかけて行われた試験では、山田町から搬入された災害廃棄物（木材チップ）約10tを、市内の家庭ごみ約56tと混合。災害廃棄物の混合率を約15%にして溶融し、民間の検査会社に放射能濃度などの測定を依頼しました。

木材チップの放射性セシウム濃度は、原子炉等規制法で放射性廃棄物として扱わなくて良いとされる100ベクレル/kg（県の受け入れ基準と同じ）を大きく下回り、平均16ベクレル/kgでした。3月12日に公表された測定

結果は、混合したごみの放射性セシウム濃度が5ベクレル/kg、処理灰（飛灰）は64ベクレル/kgでした。これらは、埋め立て処理できる国の基準値8000ベクレル/kgをはるかに下回りました。

排ガスのセシウム濃度も、集じん器（バグフィルター）の手前が07ベクレルで、煙突からの排出分は検出限界を下回る「不検出」でした。また、溶融スラグ・メタルも「不検出」となり、今までどおり再生利用できます。

これまで公表したデータを含め、全検査で問題はありませんでした。

灰は安全に処分できるの？

地下水や川の放射能汚染を懸念する声を受けて実施した、放射性物質の水への溶出量測定は「不検出」でした。

また、埋め立て終了後に処分場の上部を50cm以上の土で覆うことにより、ほぼ完全に放射線を遮蔽できます。

【伊太地区の空間線量率測定結果】

単位：μSv/h (=1/1000mSv/h)

測定場所	測定日	2/16	2/17
伊太小学校		0.06 ~0.08	0.07 ~0.08
大津小学校		0.07	0.07
上伊太公会堂		0.08	0.08
田代環境プラザ (敷地境界)		0.07 ~0.09	0.07 ~0.09



日詰 一幸

教授
静岡大学
人文社会科学部法学科
専門分野：行政学

島田市の取り組みは、災害廃棄物受け入れの試金石

受け入れに必要なことは？

島田市が、ごみ処理施設や最終処分場の住民を対象に、公開の説明会を繰り返してきた点は、手続きとして間違っていないと思います。試験溶融の決定は、市として被災地を支援するという明確な方針の表れだと受け止めています。

試験溶融の評価は？

試験溶融に住民の立ち合いを認めたのは、不安を取り除く上で大切なことです。直接自らの目で安全を確認できれば、受け入れの可否を決める判断材料になります。

それでも不安のある住民は、独自の放射能測定を試みることも一案です。市提供のデータと住民側の測定結果を照合し、安全性を確認する機

会を持つことが大切です。

今後、求められることは？

不安を抱える住民も、どのような条件がクリアされれば受け入れられるのかを、明らかにすることが重要です。

被災地の復興にとって、がれき処理は欠かせません。しかし、目に見えない放射能に不安になる住民や、国に対して不信感を持つ人がいます。その中で、受け入れ側の自治体にとって、住民との合意形成は欠かせないプロセスだと言えます。

今回の試験溶融は、他の自治体が続くための試金石になりました。だからこそ、行政と住民が真摯に話し合う姿勢が、今後も島田市には必要とされています。

十分に満たされた安全基準。災害廃棄物が故郷から消えれば、被災者の復興への心も満たされる。

検証

皆さんの正しい理解は、東北の「被災地」を「復興地」として再生させる原動力になります。



東日本大震災から1年が経ちましたが、復興への道のりはまだ遠く、その最大の障壁が、未だに山となって被災地に残る災害廃棄物です。東北の「がれき」というだけで、全てが放射能に汚染されているという誤解もまだあります。小さな子どもへの影響や、農作物の風評被害など、不安はもちろん理解できます。しかし、市が受け入れを表明したのは「災害廃棄物」であり、「放射能汚染物」ではありません。

皆さんの正しい理解を得た災害廃棄物の処理は、「被災者・被災地」が「復興者・復興地」となるための一歩となります。あの日、心から願った東北の再生のため、その手を差し伸べてください。

意見 | 行動するリスクと行動しないリスク。違いは「行動」が反応を起こし、改善・納得への道を切り開く点だ。

被ばく放射線量の限度は？

ICRP（国際放射線防護委員会）勧告に基づく法規制では、一般公衆の被ばく放射線量の限度は、年間1ミリシーベルトです。人間が1ミリシーベルトを浴びてもリスクはありません。まして、マイクローシーベルト単位では、何かが起きようがありません。

市内の空間線量は安全？

ヨーロッパの年間自然放射線量は、北欧で8〜6ミリシーベルト、南欧で5ミリシーベルト強です。人々は、そこで問題なく生活しています。日本は1.5ミリシーベルトなので、仮に2〜5ミリシーベルトの放射線を浴びても、ただちに影響が出ないと考えられます。

基準値は目安。余裕をもたせた設定値だと認識すべきだ

資料によると、伊太地区の空間線量は、溶融前後でほぼ変わらない毎時0.09マイクロシーベルト以下。本来、自然放射線量に含まれる値でしょうが、仮にこれだけを年間値にしても、約0.79ミリシーベルトです。もしも基準を超えたら？ 例えば、飲食物から検出される放射性物質ですが、暫定基準値を超えたからといって、ただちに健康被害に直結するものではありません。建物や橋の強度の安全基準に何倍かの余裕があるように、暫定基準値も100倍以上の余裕をもたせて設定してあります。また、それらは1年間摂取し続けた場合の健康への被害を考慮した値です。

伊藤 正敏

特任教授
東北大学
サイクロトロン・RIセンター
専門分野：核医学





未来

地震・津波・原発。東北の復興は、東海の希望。できる限り以上の支援を…未来の笑顔のために。

「東北の被災者を何とかお助けしたい。痛みを少しでも分かち合いたい。」この一心でこれまで災害廃棄物の受け入れについて取り組んできました。当初は、反対のメールが私個人宛にも多く届きました。しかし、私の気持ちは一度も揺らぐことはありませんでした。被災者の方に再び笑顔を取り戻していただくには、目の前の廃棄物が片付くことはもちろんのこと、思い出の詰まった品々が瓦礫として山積みになれていることへの精神的な苦痛を、一刻も早く取り除かなければなりません。

東北の瓦礫は全てが放射能に汚染され危険だとの誤った認識により、過剰なまでに心配をされる方もいらっしゃいます。今回、市が受け入れる岩手県山田町の災害廃棄物の試験溶解で得られた検査結果は、皆さんご承知のとおり、全く問題のない値であり、多くの市民の皆さんの不安は払拭されたものと思っております。

一部の方からは独断だと言われることもありましたが、災害廃棄物処理に関しては、過酷な生活環境の中で暮らしている東北地方に住む皆さんのことを思うと、まさにスピードが求められます。いつまでも結論を先延ばしにすることはできず、どこかで決断しなければなりません。それが、市民から選ばれた私の役目だと思っております。


最終的には、市民の代表である市議会、自治会長連合会、そして溶解施設を抱える地元自治会からのご理解をいただき、平成24年3月15日、災害廃棄物の広域処理の受け入れを正式に表明することができました。ここに至るまで、多くの市民・県民・国民の皆さまからの温かいご支援をいただき、どれだけ勇気付けられたことか、改めて心より感謝申し上げます。

本格受け入れに際しましては、市民の皆様が安心していただけるよう、今後も災害廃棄物の処理に関する全ての情報を公開してまいります。

今後は、広域処理が全国の自治体に広がり、被災地の復興・復興が大きく進展することを心から願っております。

【市長からのメッセージ】

山田町
みなと さとし
湊 敏さん
観光協会事務局長



山積みされたがれきが一時保管されている、町の観光拠点である浦の浜から、がれきが無くならない限り、山田町の観光は復興しません。今回、がれきの受け入れをいち早く決断していただき、町の将来に光が見えてきました。心配している方もいると伺いますが、放射線の影響がほとんどない安全なものであることを、理解していただきたいと思います。

山田町
きのした しきこ
木下 志き子さん
町議会議員



島田の皆さんに来ていただき、実際にがれきを測定した上で、安全であると言っていたいただき、安心しました。家族の思い出が染み込んでいるがれきですが、一日も早く片付けることができれば、心の中に区切りをつけることができます。がれきを受け入れてくださり、ありがとうございます。新しい山田のまちをつくりあげていく希望が湧いてきました。

山田町
なかむら やすゆき
中村 康幸さん
災害復興支援隊




これまで多くの人に支援をいただいたおかげで、町の中にも笑顔が戻ってきましたが、正直言って、がれきの山だけは、見たくありません。尊い命を奪ってしまったあの日を思い出してしまいます。がれきを受け入れてくださり、とてもありがたく思います。今は、目の前にあることを一生懸命にやって、みんなで一日一日を乗り越えていきます。

感謝

先行きが見えない町の再生。しかし、故郷で生きると決めた人々の心は、わずかな光にも反応する。


父親と一緒に経営していた菓子店は津波に流され、父親も未だ見つからず、がれきを見るのも辛いです。それでも前に進むしかありません。みんなに笑顔を取り戻してもらいたいと、やっとで菓子店を店舗で再開させました。がれきがなくなっていけば、店も増えていき、みんな元気になっていくと思います。島田の皆さん、ありがとうございます。

大槌町
あべ つとむ
阿部 勉さん
菓子店店主



がれき置き場の多くが、震災前は家が建っていた所です。がんばれ、がんばれと言われても、がれきの山の下に、まちの未来図は描けません。島田市の受け入れ表明を伺い、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。物資やお金だけではなく、自分たちだけではどうにもできないことを、皆さんが応援協力してくれている。それが何よりの力であり、励みです。

大槌町
いわま けいこ
岩間 敬子さん
おらが大槌復興食堂



この震災を契機に住宅メーカーを退職し、大槌町の復興食堂の経営を始めとする故郷の再生の事に携わっています。被災地の状況を確認するため、島田市から多くの人が足を運んでくださった熱意に感謝します。処理対象の廃棄物は、安全に暮らす私たちの生活の場にあるもので、通常の廃棄物であることを、是非お伝えします。

大槌町
おがわ じゅんや
小川 淳也さん
おらが大槌夢広場

